

市民病院まもれと病院交渉

リニューアルは1年ほど先のばし



永谷病院事務部長、鈴木課長、伊藤課長と懇談する山口はるみ（右から3人目）、磯貝明彦、岡本守正各市議 1月29日病

社保協など12人が参加

1月29日、碧南市民病院で愛知社会保険推進協議会が呼びかけ、厚生労働省が再編統廃合の対象にした424公立病院を守るようと、病院事務局と話し合いが行われました。社保協の小松民子さんはじめ地域住民や、医療関係者など約10人が参加。日本共産党3議員が同席しました。

1月29日、県から文書が届く

永谷事務局長は「国からは何の支持も来ていない。今日、県から文章がきたが、1枚だけで厚生労働省のホームページのまま」とのこと。「一方的に名指しするのは遺憾。しかし強制力はない」と答えました。「424公的公立病院424の白紙撤回」こそ、求める必要があります。

リニューアルを急げ

碧南市は、2019年度から3年間で築30年間たった市民病院のリニューアルを計画しました。その後、9月26日に国が「再編・統廃合」を424公立病院に名指し。とたんに市長は、今年分約5億円を、9月まで先送り

にしました。しかし、9月までに再編計画を出せとの国の意向もトーンダウンしています。トイレが狭い、全体が暗い、ベットの周りが狭いなど、病院の改修を求める声は、日本共産党のアンケートにもよせられています。市長は、たじろがずリニューアルを早く実施して、患者や病院職員の声にこたえるべきです。

地域医療圏では「守れ」の方向

実際に、地域の医療のありかたを検討するのは「医療圏」です。西三河医療圏構想の会議は年2回行われます。

1月27日には、5病院による幹事会が開かれ、「碧南市民病院は、ベット数を減らすこととはしない」との結論になったそうです。次回は2月10日に、上位の任意会議ネットワーク会議が開催されます。おそらく幹事会の意向を覆すことはないと思われます。その後2月の医療圏会議では、碧南市民病院は現況を守ることに結論が出されるのでは、と永井部長はのべました。

住民説明会の開催を

再編統廃合や、リニューアル計画など、市民の不安にこたえることも必要です。永谷部長は「市民から説明を求められれば応えたい」と、言われました。

国に意見書の提出を

厚生労働省や財務省が、一方的に地域医療をになう自治体病院に「再編統廃合」を言うてくる事は、命と健康に直結する大問題です。碧南市議会からも、国への意見書を3月議会に提出するために、日本共産党は他会派の議員のみなさんにも呼びかけます。

済生会中央病院のホームページに掲載された院長の言葉

「厚生労働省は地域医療構想の議論を活性化するためにという理由で、診療実績などの一定の基準により再編、統廃合の対象として公立・公的病院424病院の名前を公表し、マスコミにも大々的に取り上げられました。この中にの名前が入っていたことに当院を知る多くの医療関係者、患者さんやそのご家族は驚き、当院で働いている職員にも大きな衝撃を与えました。当院はこの地で100年以上にわたって地域の医療・福祉の向上を目的に事業を行ってきました。職員の多くは、地域の医療、福祉を支えることが当院の使命であると考えており、地域から信頼され頼りにされる中核病院であるとの自負を持って日夜業務に励んでいます。そのような当院がある日突然、厚生労働省から再編、統廃合の対象として指定されたことの不条理に憤りを感じます」

当院は地域医療構想の議論の活性化自体には反対しません。しかし、患者さんや職員の不安を大きくし動揺させるような、また風評被害の原因ともなる突然の病院名の公表という厚生労働省の今回のやり方には断固抗議します。また、信頼性に乏しい診療実績のデータだけをもちにして、その病院の地域での貢献度や存在意義をまったく無視した一方的な選定方法にも納得できません。今後も高度急性期機能、急性期機能を中心とした地域医療支援病院、救命救急センター、災害拠点病院として、この地域の中核病院の役割を果たしていきたいです。したがって、現在のところ、再編、統廃合の計画はまったくありませんので、患者さんもこれまで通り安心して受診していただければ幸いです」





2020~2022年 市実施計画 3年間 新規事業なし

3期12年間やっても

行政課題見えぬ ねぎた市長

1月22日市議会全員協議会が開かれ、第5次碧南市総合計画の実施計画書（2020～2023年）が発表されました。行政は、10年毎の総合計画に基づき、3年間の財政計画（ローリング計画）で市政運営を行います。ねぎた市長は3期12年間在職、この4月には4期目に挑戦すると公言しています。

市長として12年間を振り返り行政課題を浮き彫りにしながら改善や新施策を打ち出していくのが責務です。

各地で広がる高校まで大学まで無料

東海市は昨年8月29日に、2020年度から市内在住の24歳以下の大学生らが入院した際の医療費を市の負担で無料化すると発表しました。

豊田市は1月7日、2020年度から子ども医療費助成の対象者を入院分については高校生・大学生等に拡大すると発表しました。

市内在住の18歳年度末までと、市内在住で大学院を除く大学・短大・高等専門学校や専修学校に在学し税法上の被扶養者である24歳年度末までの学生が対象と

市町村	対象年齢	無料化内容
半田市	高校生まで	入院・通院費
刈谷市	高校生まで	入院費
安城市	高校生まで	入院費（実施中）
みよし市	高校生まで	入院費（2019年度～実施中）
名古屋市	高校生まで	入院費
愛西市	高校生まで	入院・通院費
東海市	24歳まで	入院費
豊田市	24歳学生まで	入院費
春日井市	24歳まで	入院費
北名古屋市	高校生まで	入院・通院費
津島市	高校生まで	入院・通院費
犬山市	高校生まで	入院・通院費
東郷町	高校生まで	入院・通院費
南知多町	高校生まで	入院・通院費通院費
設楽町	高校生まで	入院・通院費
東栄町	高校生まで	入院・通院費
豊根村	高校生まで	入院・通院費

なりません。

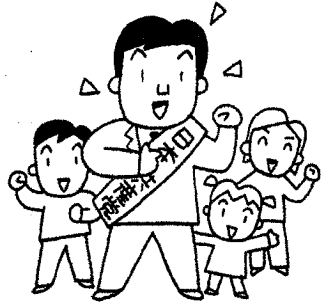
市は「若者たちが将来、希望する道に進んでいけるよう、『若者への投資はミライへの投資』との考えで、市として更なる支援をしていく必要がある。支援策の一つとして、医療費助成を拡大する。」としています。

春日井市は1月8日、子ども医療費助成を10月から24歳の学生まで入院費を無料にすると発表しました。伊藤太市長は「今年には子育て政策により力を入れていく。子どもが元気になる事で、他の世代への波及を目指したい。」とし、関連議案を市議会2月定例会に提出します。

碧南市は 高齢者と子育て対策がカギ

碧南市は、『表』のように、高齢者化率は近隣市と比較し、西尾市に続き2位。合計特殊出生率も、同様に西尾市の次に2位の低さです。高齢者が車なしでも暮らせるように、1時間毎のくるくるバスの実現。子育て世代の経済的な援助につながる。高校生までの通院入院費の無料化がどうしても必要です。

他市に遅れを取らないように、市民の世論を広げて実現しましょう。



近隣6市の高齢化率	合計特殊出生率 (H20-24)	合計特殊出生率全国ランキング
碧南市	23.1	1.63 357位
西尾市	24.2	1.58 481位
安城市	19.9	1.75 166位
知立市	19.4	1.79 121位
高浜市	19.2	1.8 111位
刈谷市	19.2	1.77 140位

戦争法廃止・安倍改憲 発議許すな 19日行動

2月19日(水)
午前11時～12時
ヤマナカ前にて
国民総がかり行動実行委員会

日本共産党碧南市議団



山口はるみ 岡本守正 磯貝明彦
☎42-8940 ☎41-5357 ☎48-2718
三度山町 2-70-4 笹山町 6-29 若松町 3-253

お気軽にご意見ご要望を

碧南市議選3議席勝利「桜を見る会」徹底追及 野党連合政権 日本共産党演説会



2月23日(日)午後2時～
場所：碧南市役所レストラン2階

(碧南市松本町28)

ごいっしょに実現しましょう

- ★1時間毎のくるくるバス。高齢者タクシー券
- ★市民病院を守る
- ★高校生までの医療費無料化
- ★住宅リフォーム、店舗改修、空き家活用補助
- ★新婚で入れる市営住宅、民間家賃補助
- ★地震対策

